



手にしているのは入選した作品の下絵

第92回院展で初入選したのが、倉敷芸術科学大学大学院博士課程で日本画を学んでいる角野友美さんだ。入選した作品は、縦215cm横180cmの大作で、2歳の姪をモチーフにした人物画だ。題名は、「つづみこむように」。なにげない子どものしぐさに美しさを感じ、姪のもつ愛らしさやあどけなさを自身の想いとともに絵にしたいと思ったそう。周囲の植物は家族や自分をイメージしており、姪を包み込む家族の輪の雰囲気表現しようとした」と言う。

制作期間は3か月。毎日12時間以上絵に向かい、アトリエのある大学に泊り込んだことも。「いろいろな人に支えられ、絵に集中できる環境を与えてもらっている」と、家族や友達に感謝の気持ちを表す。

下絵を見ながら、背景のシキビの緑色がなかなか思いう色にならなかったこと、中央の白にも工夫を凝らしたことを教えてくれた。「無我夢中で描いていた。まさか自分が入選できるとは思ってもみなかった」と、あこがれの院展に入選した喜びを満面の笑みで語る角野さん。

小学校の文集に、将来の夢は画家と書いていた。転機は、総社南高校の美術コースへの進学だった。以来、絵を学び続け、その才能を開花させた。卒業まであと1年。「卒業後は、絵に携われる仕事に就き、命あるものをモチーフにこれからも院展に出展し、絵を描き続けたい」と、にっこりとして話す。「やめたら、そこで終わりだから」。絵にかける底知れぬ情熱を感じた。

将来の夢は画家、身近な人や生き物を描いていきたい

輝いている人

再興第92回日本美術院展に初入選した

角野 友美さん（見延）

インタビュー



倉敷ケーブルテレビ
13ch
総社市回覧板チャンネル

13チャンネルは暮らしの情報源

皆さんは13チャンネルをご存知ですか。倉敷ケーブルテレビのなかの一つのチャンネルです。

「総社市回覧板チャンネル」の名前で、イベントや市からのお知らせ、休日の当番医などの身近な情報を文字と音声で放送しています。

13チャンネルは、倉敷ケーブルテレビに加入している家庭で視聴できます。アナログ放送は13チャンネル。ボタンが12までしかなくとも、テレビ本体やリモコンのチャンネルの上下ボタンで選べます。デジタルサービスを利用の場合は、CATV多チャンネルの2

02を選局してください。

このチャンネルは、市が倉敷ケーブルテレビから無償で借り受けている総社市専用のものです。番組は市で制作、編成して、24時間放送しています。1番組20分で、30秒単位で作られたお知らせが35本前後、設定された期間内は繰り返し放送されます。

また、各定例市議会（3月・6月・9月・12月）の本



会議がある日は、開始から終了までを生放送しています。このときはお知らせの放送を一時中断して、議案の提案や一般質問、議案の議決など議場の様子をお茶の間にお届けしています。

お知らせの放送の内容は、『広報そうじや』に掲載されているものを中心に作っていますが、皆さんから寄せられた情報も放送しています。

営利に関するものなど取り扱えない情報もありますが、楽しいイベントや話題がありましたら、企画課秘書広報係までお知らせください。

総社市放送番組審議会
斎藤 美絵子会長
（岡山県立大学デザイン学部講師）



13チャンネルは、市が制作と放送をする地域密着のチャンネルです。市民の皆さんには、見ていただいて、その情報を利用してほしいですね。情報をもっている人は、それをアピールしたり、参加者を募ったりすることなどに使っていただき、相互に活用して、このチャンネルを盛り上げてください。